

うちの週末^{vol.6}

～気ままに子どもと森あそび♪～

こんにちは。御代田町在住のチェリーです。

今年は雪の降り始めが早かったですね。我が家には、主人が不在の時に限って雪が降るというジンクスがあり、先日もやはり不在時に……。会社で一日雪をかき、家に帰ってまた雪かき。晩ご飯の準備もあるのに、とトホホな気分になります。でも、今年は嬉しいことがありましたよー♪いつも手伝ってくれる頼りになる長男の他に、次男も手伝ってくれるようになりました。一人でかいていた時は、途方にくれる作業でしたが、働き手が一人増え、また一人増え。三人馬力なら短時間で雪かきが終わりました！外仕事となると張り切って手伝ってくれる息子たち、今冬は頼りにしています。

さて、今回は「子どもを自然や科学にいざなうには？」について、我が家のケースを紹介したいと思います。

息子たちは揃って、自然の中で遊ぶのが大好きですし、生き物にも興味津々。「なぜ？」「どうして？」攻撃が止みません。私が自然に関わる仕事をしているので、一つ一つの疑問に正解を教えてあげていると思われがちですが、実際は、私が教えることはあまりありません。事実、息子たちの知識はそれほど多くないと思います。でも、幼児期は感性に加えて、科学的な視点を持ち始める大切な時期。「分からない」と答えてしまうと、それ以上の興味を持たせることが難しいので、心がけていることがあります。

それは、「考えること」と「確かめること」です。「ママは、こんな風に考えているけど、もしかしたら、こんな考えもあるかもしれないね。あなたは どうしてだと思おう？」と聞いてみるのです。そうすると、子どもなりの素敵な考えを答えてくれます。答えが合っていても、間違っているだけでもどちらでも良いのです。大切なのは、大人も考え、子どもも考えること。そして、考えたことを自分の言葉で説明すること。自分で答えを見つけようと思うと、注意深く観察するようになり、図鑑で調べて答えを探そうとするようになっていきます。ときには、「分からないから聞いているの！！」と考えることを投げ出してイライラしていることもあります。そんな時は、「ごめんね。ママだって何でも知ってるわけじゃないんだよ……。一緒に調べてみようか。」と、少し時間をかけて答えを一緒に探そうにしています。

「実験してみたんだよー」という素敵な言い訳で、謎の実験（イタズラ）が繰り返される我が家。

コノヤロー！と思いますが、子どもの頭の中では「科学」なのでしょうね（笑）

